

協会コン海

渋滞対策で特別委

委員を会員から募集

阪神港海上コンテナ協会（山口与嗣雄会長）は9月20日、大阪市住之江区の大阪トラ

ンスポートシステムで理事会を開き、渋滞対策特別委員会の設置を決めた。同特別委の設置でコンテナヤード前での渋滞解消協議に弾みをつけたい考えだ。委員長には上橋将良副

会長（泉州物流サービ

ス）が就任、委員は今後、会員から広く募集する。

海コン協会は大ト協と兵ト協の海コン部会員で構成しているが、兵庫部会がコンテナヤードを運営する港運業界と直接交渉できるのに対して、大阪部会では直接交渉できない慣

行が続くなど、両部会で渋滞解消の取り組み方が異なっているのが現状だ。そこで海コン協会に渋滞対策特別委を設置し、渋滞解消の協議を前進させるのが目的だ。

理事会では「台風21号でターミナルに被害が出たため処理が遅れており、入構するのに



阪神港海コン協会の理事会

い。特別委で訴えていくべきだ」との意見も出た。

海コン協会では特別委の設置と並行して港運業界などにも事情を説明、不要な摩擦を避ける方向で進める考えだ。

一方、7月中断しているターミナル等渋滞時間調査は12月に再開、12月の1カ月間のみ実施する。7月までは毎月調査していたが、事業者の負担軽減や他団体の調査方法を参考に今後は調査期間

を限定する。次回調査は5月ごろを予定している。

大ト協海コン部会などと共に進めている台風21号による海コン関係の被害調査については、9月中に大阪、兵庫両府県の会員にアンケート用紙を送り、10月5日までの回答を求めることにした。調査内容も①従業員の安全②事業施設の被害③車両被害④被害総額⑤の記入欄を設け、その他被害状況について書き込めるようにした。

毎日、延長券を買わざ

あり、「こんな理不尽は許されるものではない